

「身障者をたくさんの人に理解してもらったためにもっと記録を伸ばしたい」

熊本機械病院ケースワーカー 山本行文さん



●プロフィール
熊本県八代市出身、第八科医務(熊本県)入職、熊本県八代市立総合病院八代診療所勤務、四十八年陸上自衛隊になり受勲、五十二年四月から熊本機械病院勤務、六十二年独身、三十二歳独身。



一般的には、ロードでの練習が中心になります。

僕の場合、早朝五時から七時までの交通量の少ない時間帯を選んで走ってるんですが、それでも、段差があつたり、交通の邪魔になるので十分じゃないんです。それで、中学時代からの友人と一緒に開発した室内でも練習できるルームランナーでやっています。

外国では、広い公園や、専用のグラウンドがあるんですけど……。
——日本の場合、そういった施設面でのハンディもあるんですね。
でも、施設が有るから、スポーツをやらんじやなくて、自分でやろうと思つたらどんな状況でもやれるん

は、やる気の問題なんです。スポーツは、出来る力があつても、障害に負けている人が多いと思うんです。言い方は悪いけど、障害をバネにして、もっと自分を伸ばして欲しいですね。

——実際に障害者にとってのスポーツは、どんな意義があるんでしょうか。
特に、精神的な部分で意義があると思います。
僕ら障害者は、気持を発散させる事が必要なんです。そういう場がスポーツだと考えています。

機能面でも、運動を怠ると、障害の無い部分の機能も衰えてしまうんです。

です。つまり健康者よりも、もっと運動が必要なんですよ。
それに、筋力、体力がつけば、雇用問題への対策にもなると思うんです。スポーツが出来た、それじゃ、仕事をやってみようという具合になるんじゃないでしょうか。
——最近、以前と比べて、障害者の社会参加も活発に行われているように思えますが……。
そうですね。でも、もっともっと障害者の方から社会へ出て行かなくてはいけないと思いますよ。僕たちが、社会の中に出てこそ、本当の理解を得ることが出来ると思います。
——そういう意味で、山本さんがマラソンをするというのは、社会に対するアピールも込められているんですか。
そうですね。それはありますね。僕が走る事によって注目を集めるということは、身障者をたくさんの人に理解してもらえたらいいなと信じてやっています。そのためにも、もっともっと注目を集めるよう記録を伸ばしたいと思っています。

山本さんの職業ケースワーカーは障害者を持つ人たちの精神的な支えとなる仕事。
だから、障害者である彼の、仲間に対する厳しい言葉は、逆に期待の大きさをあらわしているようにも感じます。
「障害に負けてはだめだ。負けることからは何も生まれません」という彼は、その言葉どおりパワフルに生きている。

世界最高記録をめざしてガンバレ!

クマモトグリーンピック'86の成功が意味するもの。

明日につながるグリーンピック

産業連関表などで調べると、イベントは公共事業よりも経済波及効果が大きい。ただし、これはうまくいった場合の話。今年度全国で開催された主だった地方博覧会の成績は二勝六敗と聞く。この貴重な二勝のうちの一勝が、第四回全国都市緑化くまもとフェア……題して、クマモトグリーンピック'86。今年の八月一日から十月二日まで、熊本市の水前寺江津湖公園で開催され、当初目標の一〇〇万人を大幅に上回る一二五万五〇〇〇人の入場者を集めた。これにより、熊本県内での生産額はおよそ二六〇億円増加、家計と企業の付加価値増加額約九〇億円を創出したのである。

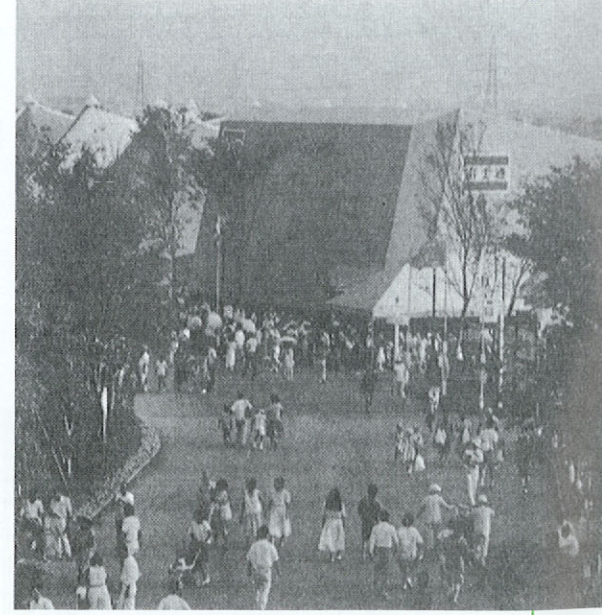
あのロス五輪で採用されたオフィシャル企業制度の応用もあつて、主催者側の負担はわずかに三億円。筑波博で人気を沸騰したサントリーや富士通などのパビリオンの出展を、知事自らプロデュサーとして折衝し実現させたこと、期間中にグリーンサミットなどの関連事業を開催してグレートアップを図つたこと、そして県内学校教師やタクシー運転手の招待をはじめとするキメ細かなセールスプロモーションを展開するなど、従来の博覧会では考えられなかったアイデア

アを次々と打出したことが、成功につながつたといえる。しかも、グリーンピック成功の意義は、実は、こうした経済効果のレベルにとどまるものではない。クマモトのあるべき姿を創るために練られた「くまもと明日へのシナリオ」……今、地方自治体の隠れたベストセラーになつているこのシナリオにしっかりと位置づけられ、明日にリンクしているところに、本来の意義があるのだ。

「偉大な田舎」を目指すクマモト
「テクノポリスというよりもエコポリスを目指したい」
活字報道からもたらされるイメージとは程遠いおだやかな口調で、細川護国知事は語る。
「地域の発展を人口というバロメータで測る考え方があつたとしても、私はそういう考え方が正しいとは思いません。少なくとも熊本を、通勤に一時間も二時間もかかるような、排気ガスいっぱい街にするのはまっぴらです。新しい農村化現象でも、農村型でもない新しいライフスタイルを指向する若い人たちが増えていきます。そういう人たちが魅きつけられるような、自然

と共生する中での知的生産の場、エキサイティングな地域づくりを進めていきたいと思つています。熊本はテクノポリスの優等生である。他県では五億円がせいぜいのテクノポリス基金は二億円集まつたし、その基金で昨年創設された電子応用機械技術研究所は早くもレーザーを応用した土砂崩れ予知システムなどの果実を生み出している。今年十月には、電応研と並ぶ熊本テクノポリス計画の中核施設となる熊本テクノポリスセンターも完成。これらの周囲にひろがるテクノリサーチパークには立石電機など五社が研究所の立地を決定し、テクノポリス圏域の大津町には、三井ハイテックが研究施設を伴つた工場の立地を決めている。

こうした他県が羨むテクノポリス計画も、「くまもと明日へのシナリオ」の中では、およそ一〇〇ほどあるターゲットの一つにすぎない。そこには、情報資源都市や緑あふれるまちづくり、高生産性農業づくり、独自の教育、福祉、文化育成など従来の国や地方行政の網からもれてきた、地味ではあるが地域づくりには欠かせないトータルな戦略がかかげられている。つまり、エコポリス……命、緑、



水、エコロジーといったものの中にテクノポリスが包含されているのである。逆に言えば、だからこそ、ハイテク企業は熊本を選挙するのだから。もう「水だ労働力だ」といって企業を誘致する時代ではない(細川知事)のだ。
——「くまもと明日へのシナリオ」に掲げられたいくつかの戦略は、精神的なスローガンではない。これら一〇〇の具体的な現実的施策が動き出している。しかも、細川知事の言う「開かれた県政、わかりやすい県政」を具体化するために、一〇〇の施策にはそれぞれ一から十までの目盛が付けられ、今どんな進捗よく状況にあるかが一目でわかるように準備されている。
——県職員の高モラル
「くまもと明日へのシナリオ」に掲げられたいくつかの戦略は、精神的なスローガンではない。これら一〇〇の具体的な現実的施策が動き出している。しかも、細川知事の言う「開かれた県政、わかりやすい県政」を具体化するために、一〇〇の施策にはそれぞれ一から十までの目盛が付けられ、今どんな進捗よく状況にあるかが一目でわかるように準備されている。
——県職員の高モラルも、かなり向上。グリーンピックの一環として、スタッフ・キャストと地元の手によるミュージカルが上演されたが、このミュージカルの指導にあつた「劇団四季」の町田副社長も、こう証言する。
「総合プロデュサーである細川知事ははじめ行政のスタッフが一丸となつて、手づくりでイベントを創り上げていく姿勢が印象に残つた。大向う受けを狙うのではなく、緻密な計算と計画性をもって、地に足をつけて文化や環境の問題と取り組んでいる姿には、かねがね敬服している。」
「行革でも日本一の行革をやろう」という知事の方針の下、七%の定員削減が進められる中で、モラルの上昇……意識革命は、確実に進行している。グリーンピック'86の成功の原因も、つきつめればここにいきつくだらう。職場の中にも、一種の「偉大な田舎」への道は、着実に縮まつているようだ。